



政治のホンマを伝えるチラシ

月刊レオナンドス通信

www.nakanishireo.com/ 平成24年初夏号 発行:中西レオ応援団

「公約だからお願いします」「次の選挙までに給食実施」

市長の暴走 議会の責任

市議会は3月議会で、平成24年度予算のうち中学校給食センターの設計費4000万円を全員賛成で減額修正しました。(真誠会、富田・宮坂議員(民主連合)が退席)その他2件の修正を加え予算を可決。その後再議となり、議会の3分の2以上の賛成により再び可決されました。(共産党が反対)

市議会は中学校給食に反対しておらず、早期実施の請願も可決済み。問題は市長の「どうしても平成27年春から実施、そのためにセンター方式、1カ所、場所は和坂の交通跡地」という決めつけにあります。

100億円以上を費やすこの事業は、学校現場や保護者と意見を交わし、多くの問題を乗り越え、最終的に議会・市長が決めるものであり、急いで決めようとする市長の姿勢は混乱を招き、結果として実施を遅らせるものです。泉市長は他にも、議員定数を1つ減らす議案や女性議員

の比率を3分の1以上にする議案を提出。議会が今年度中に議員の定数と報酬について結論を出すと説明しても「私の公約なので削減をお願いします」と個人的な「お願いします」と終始。中身の無い議論に議員も職員も振り回されて困惑しています。

大阪都明石区の騒動

「(明石市長)まだ検討段階だが、橋下が公約する大阪都が実現したら、ここ明石市は飛び地として大阪都に参加したい。その場合、兵庫県からは抜けさせてもらう」という記事が4月15日の毎日新聞に掲載されました。泉市長は後に「頭の体操」「他にも神戸市垂水区と西区を併合して政令市にしようという話もした」と述べられました。明石市のトップとしての自覚を持っていただきたいものです。振り回される市民や職員、関係者は既にウンザリしています。

なぜ、中学校給食をするのか

市長や議員は、中学校給食を導入しようとする理由を、市民に説明する責任があります。それは、明石市の税金を使うことであり、それによる利益を受けない市民に対してこそ十分に必要があるのです。

泉市長は「公約だから」「市民との約束だから」と述べるだけで、全く説明になっていません。以下は、中西レオが中学校給食を導入しようとする理由を述べます。

一つめは、弁当を持って来れない、もしくは、弁当の栄養バランスが不十分である生徒を無くし、基礎学力を身に付けられる環境を整備するためです。また、中学生ともなるとファストフードやお菓子、お惣菜といった濃い味付けの食品を好み、それをある程度自由に手に入れられるようになります。味覚の形成において重要な時期に、地産品で健康的な味付けの食べ物を全員に提供することは将来を担う世代の育成において極めて重要です。

二つめは、都市間競争のためです。明石市の人口は市外への流出により減少傾向にあります。若い世代の人口を増やす策のひとつとして、全国で約82%の中学校が実施している給食(兵庫県下でも急速に進みつつある)を導入し、

女性(母親)の就労に適した環境の整備が必要だと考えています。

議会としての合意

給食の方式は主に5つあり(裏面参照)、どれも一長一短です。さらに、ひとつの方式でも、市の直営か、民間委託かという違いもあります。

30名の議員はそれぞれに主張する方式があり、中には市長と同じように平成27年春実施を重視する声もあります。市長と議会は対等と言いつつ、意見を一本化することが難しい議会は、一人で意思決定をする市長と比べて非力さを感じる時もあります。しかし、「議会として」が問われる昨今において、党派横断的な勉強会等も活発になり、徐々にですが「仕事をやる議会」に変わりつつあります。あなたも一緒に中学校給食や議員の定数と報酬といったテーマについて考えていただけましたら幸いです。



宝塚市の中学校給食。44年前から全校で実施

明石市議会議員

中西レオの活動報告